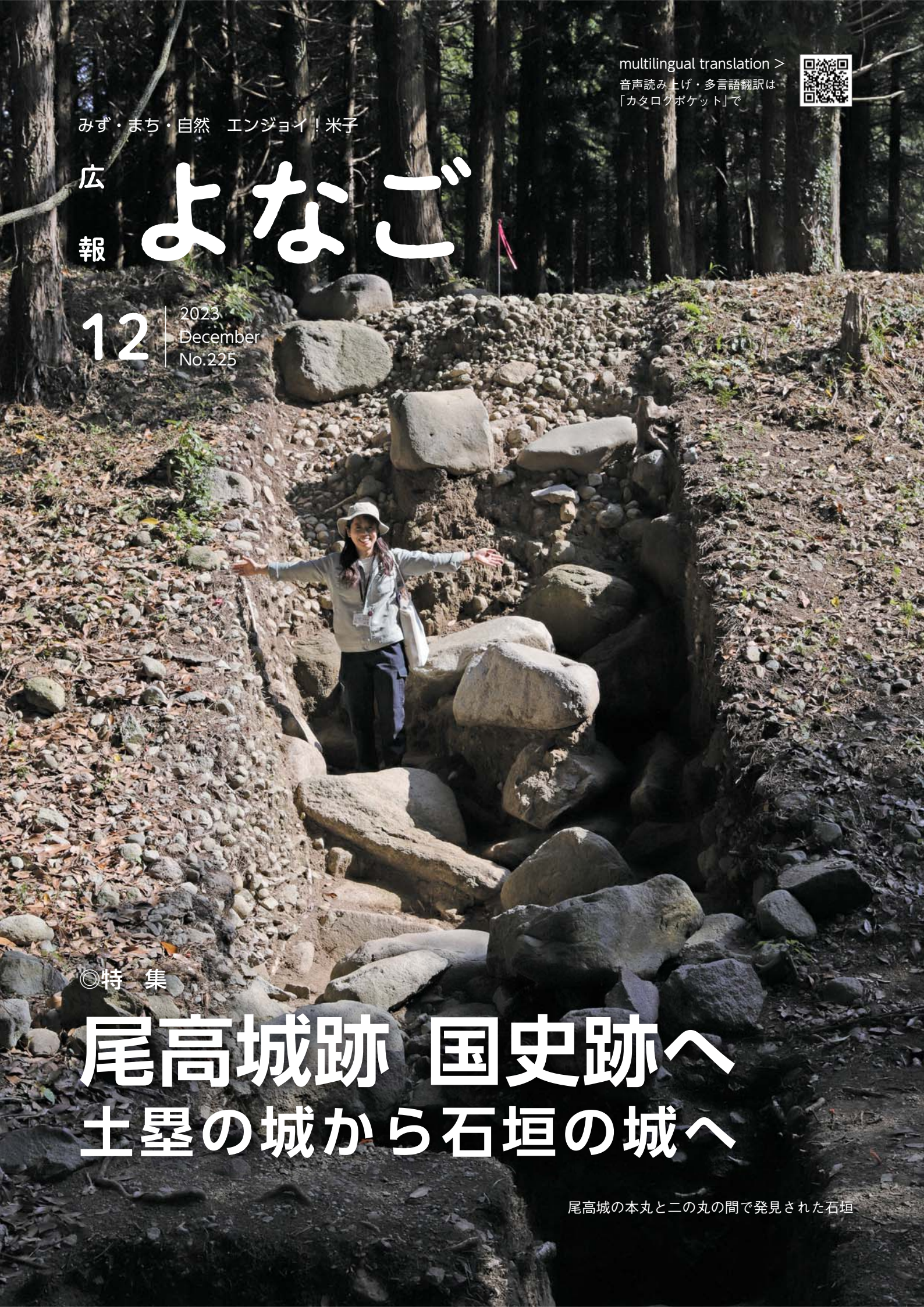
multilingual translation >
音声読み上げ・多言語翻訳は
「カタログポケット」で

みず・まち・自然　エンジョイ！米子

広報よなご

12
2023
December
No.225



◎特　集

尾高城跡　国史跡へ
土塁の城から石垣の城へ

尾高城の本丸と二の丸の間で発見された石垣

尾高城跡 国史跡へ

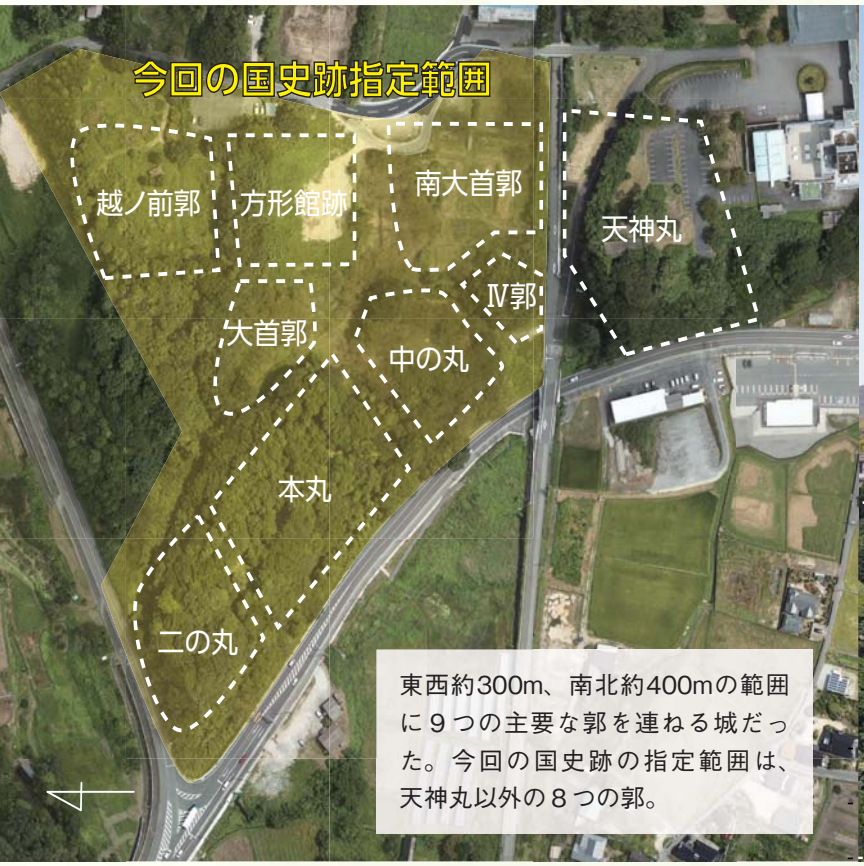
土塁の城から石垣の城へ

写真手前に広がる丘陵（点線内）が尾高城跡（城跡の西側から撮影）

米子市尾高に広がる大山山麓の丘陵の端に位置する尾高城跡。
このたび、本丸と二の丸の発掘調査が進み、土でできた山城から石垣を持つ近世的な城郭への移り変わりがわかる発見がありました。
当時の築城の変化を知る貴重な資料として評価され、10月20日に国の文化審議会で尾高城を国史跡に指定するよう答申されました。
（正式な指定告示は令和６年２月予定）
今回は、尾高城のあらましや発掘調査の成果についてご紹介します。

尾高城跡アクセス

【公共交通】米子駅から路線バス（観光道路経由本宮・大山線）「尾高城」下車徒歩約５分
【車】米子自動車道・米子 I.C. から約５分（梅園駐車場・無料）



東西約300m、南北約400mの範囲に９つの主要な郭を連ねる城だった。今回の国史跡の指定範囲は、天神丸以外の８つの郭。

乱世を生きた尾高城の変遷

西伯耆の交通の要衝

尾高城は、大山山麓の丘陵の端の崖地を利用して築かれており、西側からは米子平野を一望することができます。

また、この地は東西に山陰道が通り、日野方面への交通の分岐点であり、大山寺への入口でもありました。さらに、室町時代には西側を佐陀川が流れており、水陸の交通の要衝であるため、西伯耆（鳥取県西部）の政治的・経済的・軍事的に重要な場所でした。

領主の館から戦国城郭へ

尾高城の始まりは定かではありませんが、発掘調査などにより鎌倉時代の建物の跡が見つかっており、当時の領主の館だと考えられています。

室町時代から戦国時代には、山名氏（山陰を中心に勢力を持った守護大名）の一族の幸松（ゆきまつ）氏が居城し、当時出雲を支配していた尼子氏の伯耆侵攻に対し、争いを繰り広げました。

幸松氏が病で亡くなった後、毛利元就は重臣である杉原盛重を城主として送り込みました。盛重は尾高城を戦国城郭として整備し、空堀（からぼり）（水のない堀）や土塁（どるい）（土を盛った防壁）、切岸（きりぎし）（斜面を削って作った崖）で堅く守られた山城となりました。

土塁の城から石垣の城へ

盛重の死後は、吉川広家（きっかわひろいえ）が城主となりました。このたびの調査では、本丸と二の丸の間から自然の石が積まれた石垣が見つかり、築城の名手である広家が、尾高城を土塁の城から石垣の城へと改修しようとした変遷をうかがい知ることができます。

関ヶ原の戦い後、広家は岩国（山口県）に国替えになり、中村一忠が尾高城に入城しました。米子城の完成後は支城のような役割を果たしましたが、一国一城令（1615年）により廃城となり、その際に石垣を壊した跡もこのたび発掘されました。

守りが堅い！尾高城

尾高城は、丘陵に小さな谷が入り込んだ地形を利用して築城されており、9つの主要な郭の間には深い空堀が迷路のように張り巡らされていたと考えられています。

それぞれの郭は土を盛った防壁である土塁で囲われていたと考えられていましたが、このたびの発掘調査では、その一部に石垣や石塁（せきるい）といった石造の構造物が発見されました。

本丸の石塁

本丸を囲う土塁（土を盛って築いた防壁）の構造を調査したところ、西側で石塁（石を積んだもの）が見つかりました。石塁は整地された地面の上に構築されていることや、その形状から、築地塀や門などの基礎であると考えられます。

南大首郭

南大首郭（みなみおおくびくるわ）の東側と南側には土塁が確認され、西側の隅には櫓状の建物跡が確認されました。東側の空堀には大きな柱穴が見つかり、堀の中央には木橋がかかっていたと考えられます。また、その空堀の外側では大きな建物跡が見つかり、文献に現れない鎌倉時代まで遡る、尾高城に先行する領主の館だと考えられます。

南大首郭の西側隅の櫓跡

城郭研究家・中井先生のコメント

尾高城跡の国史跡指定にあたり、城郭研究の第一人者である中井均先生にコメントをいただきました。

尾高城は伯耆守護の一族である幸松氏の居城であり、戦国時代には毛利氏の重要拠点として杉原盛重が入れ置かれ西伯耆支配の拠点城郭となる。さらに豊臣政権下では吉川広家により改修され、慶長５年（1600 年）には関ケ原合戦の戦功で伯耆一国を領した中村一忠が入城し、米子城に移るまでその本城としている。

こうした戦国史が発掘調査によってほぼ裏付けられ、最終的には石垣や築地に伴うと見られる石塁を構えた近世城郭へと変貌する構造が明らかにされた。

このように尾高城は山陰の戦国史を物語る第一級の城跡であり、国史跡指定にふさわしい城跡である。

中井 均 先生（滋賀県立大学名誉教授）

Information

尾高城跡の発掘調査の最新成果
―土の城から石の城へ―

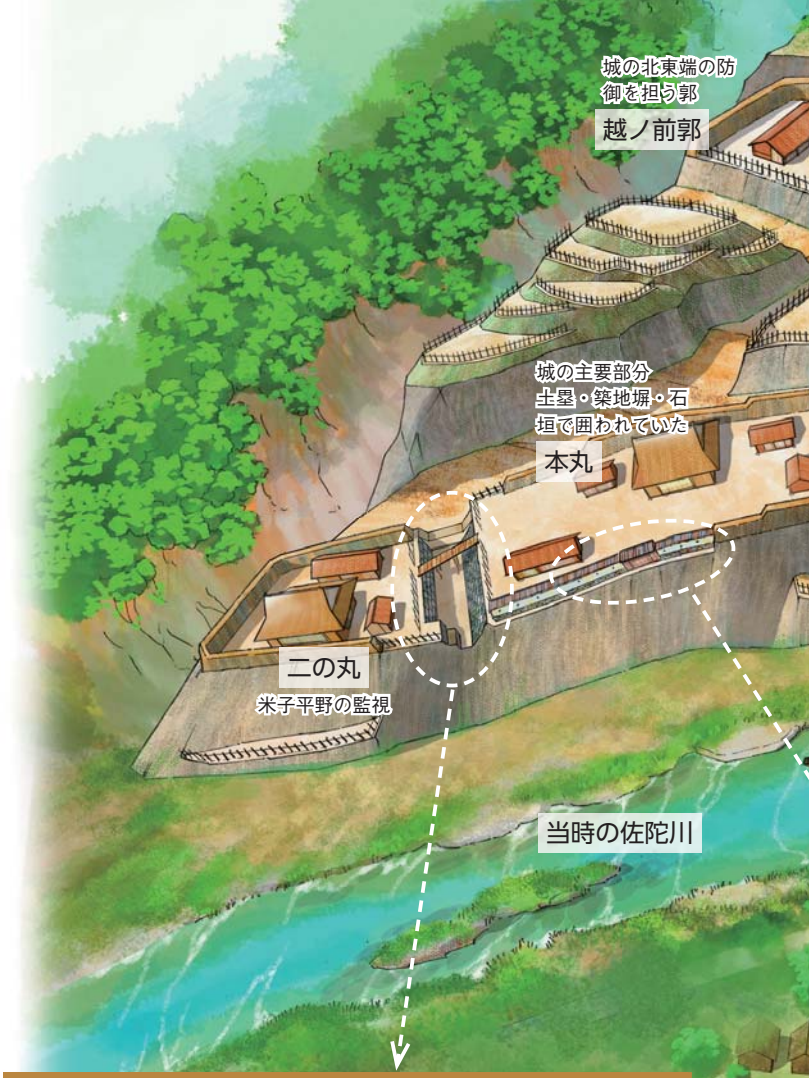
これまで考えられていた尾高城跡の姿が一変する新たな発掘調査の成果を出土品やパネル展示で説明しています。

■開催期間　～１月15日（月）
■休館日　火曜日、12月29日～１月３日
■会　場　米子市福市考古資料館（福市遺跡前）
■開館時間　午前９時30分～午後５時

～今後も発掘調査を続け、
適切な整備を進めます～

尾高城イメージ図

現在、本丸と二の丸は私有地のため、
許可なく立ち入ることはできません。



本丸北堀の石垣

本丸と二の丸の間の堀跡からは、大きな石がたくさん見つかりました。このことから、堀の両側に石垣が構築されていたことがわかりました。崩落した状態の石もあり、廃城時に石垣を壊した証拠だと考えられます。また、堀の底には大きな柱穴が見つかり、二の丸から本丸にかけられた橋脚の跡だと考えられています。